

第6章 口頭英作文のすすめ

2. 指導の実際

(3) 絵や写真を使った口頭英作文

絵や写真という非言語的(nonverbal)要素がキューになるため、表された抽象的意味や概念を、まず日本語にコード化してから英語に訳すため、学習者ごとの解釈の多様性が生まれ、同時に英語表現の多様性が生まれることになる。以下は、その多様性のレベルがやや高い例である。

ア) 教科書の絵や写真を使った口頭英作文

挿絵と、その絵について述べた会話文(本文)を使用し、まずは本文の説明と音読を行った後、生徒ひとりずつに英語で絵の説明をさせる。最初は文と文のつながりを意識せず、英語で言える事を次々に言わせ、慣れてきたら、話す文数を増やしたり、全体でひとつのパッセージを完成させるなどレベルをあげていく。(例 P 94: 絵や本文からわかる事実を英作文にする。文中に述べられていない事柄を想像して作文することも可能。)

イ) ストーリー性のある絵を利用した口頭英作文

ストーリー性のある絵を提示し、生徒のさまざまな解釈と、英語表現を引き出して口頭英作文をさせる。(例 P95: 男女の挿絵をもとにペアで会話練習をした後、それをもとに男女それぞれの様子や言動を想像し、作文にする。)

(4) オープン・エンド形式によるパターン・プラクティス

意識的なパターン・プラクティスを利用して十分なアウトプットの量を確保する方法。以下、中学・高校の2つの言語材料を用いた例。

ア) 仮主語構文

仮主語 it を用いた構文は、話者の意見や感想を述べるのに使われることが多く、自己表現に発展させるのに最適である。

① 構文をもとに教師は生徒に置き換える単語のキューを与えて素早く置き換え練習を行う。

② 教師は置き換えの箇所を示し、基本文を板書する。

基本文: It is [1] for me to [2].

教師は 1 に入る語を指示し、生徒は自分に当てはまる 2 を話す。

1 には difficult, easy, necessary, important, interesting, fun などが適切。

③ ②のようなやりとりの中で、教師が生徒の答えをもとに更なる質問を続ければ英語によるコミュニケーションの土台になる。

イ) 仮定法過去

高校生に自分の事を話させようとしてもうまくいきづらいが、仮定法だと、空想や虚構の世界のことなので、周りの目を気にすることなく英語を口にすることができる。

文法説明では、従属節および主節の動詞形に習熟させ、表す時間は過去ではなく現在であることを理解させる。

基本文：If I were a/an[1], I would [2].

If I had [3], I would [4].

教師は1、3に入る名詞を指示し、生徒は2、4に語句を補う。できるだけ易しい単語と話題を選択する。(例 P98)

教師は必要があれば生徒の回答への補助を出し、スムーズに進めることやクラス全員に補助内容を共有することや、初めは慣れなくとも継続的に行うことが重要である。

3. まとめ

【口頭英作文を行う際の指導者の留意点】

① 教師のキューを出すスピードと生徒の回答のスピード

ただし、ここでのスピードとは「英語で考える」ことではなく、頭の中で日本語を英作文するのに要する時間をできるだけゼロに近付けることである。

② 文法の正しさ

本章で紹介した方法は教師が学習者に一定の制約を加える点で、訓練的要素があり、だからこそ発話の流暢さと正確さをともに目標にすべきものと捉える必要がある。日本の英語授業における訓練とは学習者の発話の量を増やすことにより流暢さを高めつつ、学習している言語材料に正確に慣れ親しませることである。

③ 学習者が口頭英作文で言えるようになった英文を筆記英作文によって書けるようにさせ、学習内容を強化

話すときに比べ、書くときには時間的猶予があるためこの違いを利用してスピーキングの能力を伸ばすために筆記英作文も取り入れる。教師は学習者が正しく文字化できているか、句読法まで含めライティングとしてきちんと通用するか確認する必要がある。

かつては頻繁に行われていた口頭英作文もいまではあまり顧みられなくなったが、教科書の解釈だけで生徒のアウトプット能力を伸ばすことは不可能であり、コミュニカティブ・アプローチへの信頼も薄れている今、こうした方法を取り入れてみてはどうか。

[感想]

実際に中高6年間で、筆記英作文の経験はあっても、口頭英作文の経験は全くなかった。自分の言葉を英語で示すことは今の日本人にとっては容易ではなく、ただひたすらコミュニ

ケーション能力育成を訴えるばかりでその方法は明確ではなかった。しかし、この誘導的な口頭英作文はその第一歩の訓練に最適であると感じる。ただし、授業中にも話題になったが、与える題材への注意も必要だ。解答例も載せられていたが、実際今の生徒たちは授業に乗り気でなかったり、発想が乏しかったりする。事実、授業中に練習してみても単純な決まりきった答えしか出なかった。そうした生徒たちの柔軟性を引き出す方法からまず検討すべきである。